

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101174		
法人名	特定非営利活動法人 大瀬戸福祉サービス		
事業所名	グループホーム わらび苑	ユニット名	
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸樫浦郷1468番地		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成26年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年12月12日	評価確定日	平成26年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう行政・関係機関等と協働して取り組んでいます。今までの実践から得られた認知症ケアのあり方を地域に向けて発信し、地域と共に歩んでいます。それと福祉事業に限らず様々な相談にも対応できる体制を整えています。常に先を見据えた活動と地域住民のお役に立てる事業所を目指して職員一丸となって取り組んでいます。今年度からは新たな地域貢献活動として地域包括支援センターからの依頼を受け認知症サポーター養成研修(キャラバンメント)を職員が受講し、さらに認知症サポートリーダー養成講座へも職員を講師として派遣することになっている。常に行政と協働して認知症の人を地域で支える活動行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西海市大瀬戸町にある「わらび苑」では、ホームの庭や畑が更に整備され、季節の花々や野菜が作られている。「外が綺麗であれば、来訪者も喜ばれる」と言う思いを理事長は大切にされており、ご利用者だけでなく、来訪者も大切にされた取り組みが続けられている。ご利用者も、理事長が作られる野菜を楽しみにされており、ホーム長の愛する花々も増え、ご利用者が自然と外に出かけたくなるような環境が作られている。ホーム周囲の山々や猪の親子、空に現れる虹などを見ながら会話が弾む事も多く、ゆっくりとした時間の中で、ご利用者はタオルたたみや新聞折り、時には花壇の水やりをして下さる方もおられる。明るい職員も多く、歌を唄ったり踊ったりして、賑やかに楽しく過ごせるように努めている。保育園児の来苑も楽しみであり、マンドリンクラブの来苑時は演奏に合わせて皆さんで合唱を楽しまれ、まさに理念の通り、「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」という理念を日々実践されている。この理念には「地域で、地域の人を、地域の人が」という意味が込められており、これからも地域の方も「いっしょに」、地域の中で「たのしく」生活が送れるように取り組みを続けていく予定にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」の理念を管理者と職員全員は理解・共有しており、認知症の人が地域で普通に暮らすことが出来るように実践につなげている。	ミーティングを常に行っている。理念の実践状況の共有を行うと共に、ご利用者の思いに近づけるように意見交換を続けている。勉強熱心な職員ばかりで、意見交換の内容も深くなっており、ホーム長を中心に職員のチームワークも更に良くなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの参加、夏祭り等への地域の人の協力や参加などを通じて、日常的に地域の人達と交流している。	地域の方から、「わらび苑であれば何でも教えてくれる」と言う声も聞こえており、常に地域の事を思って、「やれることをやっていく」と言う実績(姿勢)が着実に地域に浸透している事を嬉しく思っている。地域のお祭りに参加する時は席を準備して下さり、地域の春の祭礼には、ご利用者と家族も参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室や認知症サポートリーダー養成講座に講師として職員を派遣したり、事業所独自の出前教室を実施して認知症の人の理解や支援方法をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、積極的に取り入れてサービス向上につなげるよう心がけている。また、直接事業所に関係ない事項についても解決に向けた取り組みをしている。	会議にはご利用者も参加し、和やかな集いになっている。会議では地域における認知症に限らず、高齢者福祉全般について話し合われる事が多く、出席者からも「勉強になる」と評価を頂いている。今後は認知症サポートリーダー等にも声かけし、ホームのご様子を体験して頂くと共に、ホーム内での開催も検討予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が市の高齢者福祉関連委員会等の各種委員長を務めており、日頃から日頃から意見交換等しており、協働して認知症対策等に取り組んでいる。	理事長は地域の方からの相談を受けており、市の担当者に繋ぐ取り組みも続けている。西海市からの相談にも応じ、西海市福祉施設連絡協議会が西海市から受託している介護教室の講師として、職員を派遣している。理事長が市の各種福祉関連会議の委員をしている関係で、常に状況説明ができる機会を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解しており、如何なる場合でも拘束しないケア(例外もない)を実践している。	ホーム長が身体拘束廃止推進員養成研修を受講し、職員に伝達している。“身体拘束は虐待。例外はない”という理事長の考えを職員も理解し、転倒の可能性がある方は、職員の見守りを徹底し、家族にも身体拘束はしない事と起こりうるリスクも説明している。言葉遣いにも配慮し、ご利用者個々の生活のペースを大切にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者が人権擁護委員をしており日頃から虐待について学ぶ機会がある。虐待についての報道等があった場合はその内容等を全職員で考えて学ぶ機会にしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について代表者から学ぶ機会が日頃からあり、必要な方には活用できるよう積極的に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時の契約書や重要事項説明書は、利用者や家族等が理解しやすいように懇切・丁寧に説明し、納得が得られてから締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族などから不安や疑問点が聞けるような関係づくりを日頃から心掛けている。意見や要望等が運営に反映できるようにしている。	家族会や行事の場で、家族と集う機会を大切にされている。敬老会や夏祭りの時も多くの家族の方が参加して下さり、家族主体で出し物をして下さった。家族の面会も多く、理事長やホーム長は家族個々の課題に向き合い、市の担当者とも連携しながら、解決に向けた取り組みが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会等で出された職員の意見や提案で運営に反映できるものについては、反映させるようにしている。	自主的に勉強する機会も増えている。職員は勉強熱心で、質問のレベルも着実に上がっており、疑問等を気軽に先輩職員に相談できる環境になっている。職員は、家族会や敬老会等の行事の意見やアイデアを提案し、職員会議の場で検討が行われている。ホーム長が個別に話を聞く事も多く、職員の思いを知るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場内外の研修会等への参加や日常の業務態度から意欲を持って業務に取り組めるような職場環境を整え、職員が向上心をもって働けるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら学べる環境整備やその能力に応じた研修会等への参加を促し、職員一人ひとりの能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西海市福祉施設連絡協議会に加盟しており、同業者との交流や勉強会の機会を確保しており、活動を通じて質の向上を図っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供時に本人の意向を聴き取り、本人が安心して暮らせるような声かけの言葉づかいにも注意して早い段階で信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供時に家族の思いや要を聴き取り、家族が安心できるような対応を心がけ、家族との良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供時に本人と家族が望むサービス内容を聴き取り、本人に必要なサービス内容を見極めて提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らすことを考え声かけの言葉づかいや態度等について人生の先輩として接することを大切にして、本人から学ぶ姿勢を持ち、良い関係が築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の暮らしを報告したりして家族と本人の関係を大切にし、家族と共に支えて行ける関係が築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所を大切にし、その関係が途絶えないよう家族と協力しながら支援に努めている。	生活歴を丁寧に把握しており、ご利用者との会話の中で、家族の話しや以前の仕事、昔働いていた場所等の話しを伺っている。海や花を眺めながらドライブをする機会を作ると共に、地元巡りも行われ、「知っている人に会えた～」と喜んで頂いている。お墓参りや自宅に家族と行かれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々が孤立しないで互いに楽しい暮らしができるよう入居者同士が関われる場面を大切にして職員が仲介役となって支え合えるよう支援している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても家族等との関係が途絶えないよう、事業所の行事への声かけや退居後に死亡された時は弔問や初盆に訪れたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やコミュニケーション記録簿から一人ひとりの希望や意向が把握できるよう心掛けている。困難な場合はコミュニケーションを通じて聴き取れるよう心掛けている。	団欒時や入浴時に一緒にお話しをしたり、家族の面会時に情報を頂いている。センター方式も活用し、ご本人との会話の中で聞かれた何気ない言葉を、“コミュニケーション記録簿”等に記録している。色々な思いで入居されている方も多く、入居前や入居時の思いを把握する取り組みを続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や暮らし方は入居時に家族や本人から聴き取り、入居後は家族、日々の会話、コミュニケーション記録簿等で把握できるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や表情・態度からその日の心身状態が把握できるように心がけており、職員がその日の変化に気づけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日頃の関わりや家族の思い、関係者からの情報、職員の気づき等を集約し全職員でアセスメントを行い、本人を中心に据えた現状に即した介護計画書を作成している。	職員全員でアセスメントし、計画作成担当者が計画の原案を作成している。かかりつけ医にも意見を頂き、全職員で話し合いが行われている。自立支援の視点も大切に、洗濯物たたみや新聞折り、拭き掃除などの役割も盛り込まれ、リハビリの視点も大切に計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌、業務日誌、夜勤日誌、コミュニケーション記録簿等で本人の日々の様子を全職員が共有しながらモニタリングを実施して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その場面で生まれるニーズを的確に捉えながら本人や家族が望むサービス内容について全職員で話し合い柔軟なサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃から本人の心身状態をを考えながら家族と共に地域資源を活用して楽しく暮らすことで本人の力が発揮できるような場面づくりを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医で受診出来るようにしており、通院介助を行うことでかかりつけ医との連携を図っている。受診結果はその都度家族等に報告している。	かかりつけ医とは、いつでも相談できる関係ができています。職員の観察力も高くなり、早期発見・早期治療に繋がっている。職員は処方箋を確認し、注意事項の再確認をしており、急変時の連絡方法も家族の希望を確認し、受診結果や体調の具体的な報告が行われている。救急隊員とも情報交換しやすい関係ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関、本人のかかりつけ医の看護師と日々の関わり状況や気づき等の情報を提供して本人が適切な看護を受けられるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、リロケーションダメージを防ぐため医師と話し合い出来るだけ早期に退院できるように努めている。医療機関関係者との情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の終末期のあり方については、本人や家族等の死生観を大切に医師や家族等と話し合い事業所が出来ること、出来ないことを確認し合って方針を共有している。	昼間は往診に来て下さる体制がある。終末期の意向を確認し、意向に応じてホームでの看取りケアが行われている。死生観や終末期ケアの勉強会も行われ、ご本人の死生観に寄り添い、宗教等も把握し、その方の生き方(終末期の過ごし方)も含めて職員間の共有を続けている。終末期には、ご本人がお好きな飲み物を家族が飲ませて下さり、職員もみかんゼリー等を作り、少しでも食べて頂ける支援が続けられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備え、普段から状況把握と体調の変化に気づけるような対応を行っており、初期対応の訓練等を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する初期対応や避難訓練は消防署の協力を得て定期的実施している。災害発生時の避難方法は全職員が訓練を繰り返し実施して身につけている。地域とは日頃からの協力体制を整えている。	25年度中にスプリンクラーが設置予定で、日々の防災チェックも続けている。自力歩行困難者などの表示もあり、常に確認できるようにしている。災害時の“指揮”が重要と考え、指揮が着実にできる訓練も行われている。災害時は施設協議会からの支援体制もあり、飲料水や食料の備蓄も行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から利用者を傷つけないような声かけに心がけ、本人の誇りやプライバシーを守れるような対応をしている。特に誘導時の声かけやその時の態度に注意して対応している。	職員は、ご利用者に対して年長者としての敬意を持って接している。少し馴れ合いの言葉などが聞かれた時や、日々のケアの中で気付きがあった時には、ホーム長から職員に伝えている。理事長も、“虐待”に関する新聞の切り抜きを申し送り帳に貼り、職員に見て頂くようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望する思いを表出できるように本人に合わせゆっくり待って声かけ、その言葉や表情等から読み取りながら自己決定を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の体調や気持ちを大切にドライブや散歩等を働きかけ、その人の希望にそった日になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合った身だしなみや外出時のおしゃれの支援を行っている。服装に乱れがあった場合は、さりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の新鮮な食材を使い、食材を話題にしながら皮をむいたり、刻んだりを職員と一緒に楽しく行う事で本人が力を発揮できるようにしている。事業所の畑で採れた野菜をみながら喜んで配膳し、味わった後は下膳の手伝いをお願いしている	理事長が作られた野菜は好評で、皆さんが喜んで下さっている。お刺身も大好きで、昔ながらのふかし芋やイワシを炊いた料理、クジラ料理や煮物等の郷土料理も作られ、手作りの釜めしも楽しませている。彩りも大切にしており、「綺麗かね」と喜んで下さっている。ご利用者と一緒にごしらえをしながら、会話を楽しませている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量と残食を把握しており、カロリー摂取についても定期的に計算している。水分補給量も把握し、水分補給が困難な人には代替品で摂取してもらうよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行い、口腔内の清潔に心がけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を取って一人ひとりの排泄パターンを把握しており、必要に応じてこう書け誘導を行って自立に向けた支援をしている。	排泄が自立し、下着を着用されている方もおられる。個別の誘導を行う事で、多くのご利用者がトイレでの排泄ができています。羞恥心にも配慮し、排泄時はトイレのドアやカーテンを閉めたり、トイレとは言わず、「用事がありますので・・・」などの声かけをして、トイレにお連れする時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、適度な運動、水分補給により自然排便が促されるように取り組んでいる。また、排泄記録により常に排便パターンを確認し、必要に応じた誘導をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきになっているが、希望があれば毎日入浴できるように対応している。また、ゆず湯や菖蒲湯などを行って入浴が楽しめる工夫もしている。	お一人ずつの入浴で、昔話や家族の話など、職員との会話を楽しまれている。広い浴室内は滑り止めマットを活用し、移動時は手をつないで安全に移動している。手すりも設置しており、できる範囲はご自分で洗って頂いている。シャワーを希望される方もおられ、希望に応じた入浴支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、生活習慣などに応じて休息したり、安心して気持ちよく睡眠できるように支援している。また、眠剤に頼らない睡眠を促すよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を一人ひとり整理し、目的、副作用、用法や用量について全職員が理解している。服薬時には、きちんと服薬できたかどうかその都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の雰囲気やタオルたたみや新聞折り等をお願いし、役立つ場面を作っている。時には、花壇への水やりや歌を唄ったり、踊ったりして賑やかに楽しく過ごせるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の天候や一人ひとりのその日の体調や希望にそって、ドライブや散歩に出かけており、夏祭りや敬老祝賀会は普段行かない場所で家族と共に楽しめるよう支援している。	桜やつつじ、秋桜などの花見に出かけている。ご利用者の希望に応じて家族と一緒に墓参りや自宅に出かけている方もおられ、外出が少ない方も庭で歌を唄ったりする機会が作られている。気候が良い時はホーム周辺の散歩を行い、理事長が育てている野菜を眺めたり、ホーム長が育てている綺麗な花を楽しまれており、周囲の山々の季節の移ろいを感じながら、会話を楽しまれている。	ご利用者の中にはお花が好きな方が多く、歩行ができる方も増えている。今後も心身状況に応じて外出やドライブを増やしていく予定であり、お弁当などを持参し、四季折々のお花を楽しんで頂きたいと考えている。買い物のお機会を増やすためにも、移動販売などの利用も検討する予定にしている

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っていると安心される方もおり、一人ひとりの希望や能力に応じた支援を行っている。お金をもっている方については、その金額を家族と一緒に確認している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を受けたり、かけたりする事は本人の希望により、その都度対応している。また、電話の対応がしやすいように工夫している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間が不快感を与えないように配慮し、台所の音、掃除機の音、食事のにおい等生活感が感じられ、事業所内外の環境で季節感がわかり、心地よく過ごせる環境整備を日々工夫している。</p>	<p>ホームの周りの花壇には、ホーム長が愛情込めて花を育てておられ、ホームの廊下やリビングにも沢山の花鉢が飾られている。温湿度の管理や換気も行われ、リビングのソファでは、皆さんで仲良く座って過ごされている。理事長のお孫さんが外で遊ぶ姿を見て、「今日は日曜ね」と言う会話も増えており、窓から見える柿の実を眺めながら、「渋柿ですな」等と話題を膨らませている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間でも一人になりたい時は一人になれ、気のあった人と語らう場所をそれぞれが確保しており、それぞれ居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の居室の空気の入れ替え、気にいった写真やカレンダーを貼っている。使い慣れた物の持ち込みは自由にしている。家族等が来られた時もゆっくり、くつろげるようにしている。</p>	<p>理事長手作りの表札が入り口に掛けられている。掃除が行き届いた部屋にはタンスや置き時計などが置かれ、お孫さんや家族の写真、手作りの人形(犬)も飾られている。自宅で読まれていた教育勅語や、ご自分で編まれた手作りの草履を持参されている方もおられ、家族の方が週刊誌を持ってきて下さっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>暮らしの情報シートで「できること」「わかること」を把握しており、廊下やホールには余計な物を置かないようにして安全面への配慮を心掛けている。</p>		